

ユーザの嗜好を考慮したブックレビューランキング手法

若松 望

現在 Web 上には数多くのブックレビュー投稿サイトが存在し、誰でも気軽に本のレビューを投稿したり、多くのユーザから寄せられるレビューを読んだりすることができる。これらのブックレビュー投稿サイトのレビューランキングはユーザからの投票を利用しており、多くの投票が必要であることや投票に偏りが生じることが問題点として指摘されている。この問題を解決するため、レビューの文を用いてランキングする手法が研究されているが、それらの手法はユーザの嗜好の個人差を考慮していない。本来ユーザは多様な嗜好を持ち、参考にするレビューも人によって違うことが考えられる。

そこで本研究では、ユーザ個人の嗜好を反映させるブックレビューランキング手法の実現を目的とする。個人の嗜好を反映させることで、ユーザー一人ひとりに合ったレビューを上位にランキングすることができると考えた。個人の嗜好としては、レビューの長さやレビューに含まれる単語の好みに着目した。

提案手法は、まずユーザが過去に参考になるかどうか判定したレビューから、長さの好み、単語の好み、これらの好みの最適な比重の 3 つをユーザごとに取得し、ユーザの嗜好データとする。次に取得した嗜好データを用い、新規に与えられるレビューのスコアをユーザごとに計算し、ランキングする。

本手法の評価のために、14 人の判定者が 1000 件のレビューをそれぞれ参考になるかどうか判定した評価用データセットを作成した。比較手法として、ユーザ全員の平均的な好みを反映するランキング手法を実装し、作成した評価用データセットを用いて精度の比較を行った。

評価の結果、提案手法は比較手法よりも精度が高く、ユーザの参考になるレビューを高い割合で上位に提示することができた。実際、提案手法によってユーザごとに求められた長さの好み、単語の好み、最適な比重には違いが見られた。そのため、本手法は比較手法よりも適切に個人の好みをランキングに反映できたと言える。ただし、人によっては提案手法、比較手法ともにランキングの効果が見られない場合もあった。

本研究により、個人の嗜好を反映することでブックレビューランキングを改善できる可能性が示された。また、レビューの長さやレビューに含まれる単語の好みが人によって異なることが明らかとなった。今後の課題は、ランキング精度の向上である。そのために、単語と長さ以外の好みの検討が必要となる。さらに、実際のブックレビュー投稿サイトで利用されているランキングに提案手法を適用した場合の評価を行うことも必要である。

(指導教員 松村敦)